



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
発行責任者 中川喜久子
2020.3.19

全教北九州

検索

新年度準備特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

「働き方」改革元年にふさわしい、労働条件改善・諸権利拡充のための運動をひろげよう！

「働き方」が問われている

2020年度は「勤務時間」上限規定の制度変更にもなう労働環境の変化や一年単位の変形労働制の問題など教育に携わる労働者の「働き方」が大きく問われる年になります。

教職員の「働き方」改革では教職調整額4%はそのまま、私たちには何のメリットもない「1カ月の在校等時間45時間以内、1年間在校等時間360時間以内」という、「定額働かせ放題」の上限規定を設けようとしています。

加えて教職員は、政府による総人件費の抑制政策で退職手当も大きく下げられました。

これから教育への希望を胸に採用された若い仲間たちの期待を裏切らない教育現場にするために、健康で安心して働ける労働条件と、子どもの成長と発達を保障する教育条件を整備する運動が求められています。

上意下達より話し合い

新型コロナウイルス感染症の発生状況により新学期の動向も気になりますが、上意下達ではなく職場での話し合いが今こそ求められています。

新規採用の先生へ声をかけよう

新採の先生には、学校にダイレクトメールを送ります。

内容は全教共済の募集パンフレット、全教共済のボールペン、クレスコ4月号、組合パンフレットなどです。

4月4日開催予定だった「せんの学校」は中止になりましたが、学級開きで役立つ資料等も入れていきますので声をかけてください。

全教共済の話をしよう

共済パンフレットを職場で配りましょう。

共済は、営利を目的とせず、助け合いを目的としています。その利益は教職員の生活や健康、身分を守る運動に使われています。

また、職場での共済の募集を組合員が無報酬でおこなうことで、掛金を安くすることができています。このようなことも話しながら共済への加入を勧めましょう。

長時間過密労働改善の提案を考えてみよう

新年度の提案を「長時間過密労働改善」の観点で考えてみましょう。

省略できることはないか、やめることはないか考えて声をあげていきましょう。

安心して働ける職場づくりは、子どもの成長と発達を保障するために欠かせません。

職場での話し合いのポイント

全教北九州の話をしよう

内示後は、新年度の学年編成、担任決めなどで対話の機会が多くあります。新聞全教北九州や権利ハンドブックを使い組合の話を楽しみましょう。

問題になっている45時間上限規定、65歳定年制なども話題にしなが、教職員組合が労働条件改善の運動をしていることも話しましょう。

休憩時間を確認しよう

休憩時間を確認しましょう。中学校は全校、小学校でも分割付与の学校が増えているため、いつが休憩時間なのかわからない教職員も多いです。

休憩時間とは、労働者が自由にできる時間です。休憩時間に業務が入るときは、必ず振替を確認しましょう。

子どもの多忙化を解消しよう

放課後や行間に学力補充タイムをとる学校が増えています。授業時間が増えたこともあり、子どもたちの休み時間や放課後の時間が減っています。

本来学力は授業時間につけていくものです。子どもの多忙化は、教員の多忙化解消の点からも、改善が必要です。



互いの良さを尊重し、ぬくもりが通い合う学校

真に子どもたちや保護者から信頼される学校づくりをすすめます

神戸市での教諭いじめ事件について、全教北九州市教職員組合はこう考えます

問われる「同僚」観

学校は本来、いろんな先生がいて互いに協力共同しながら、全職員で教育をすすめていくところです。今、私達には「子どもをどうみるか」だけでなく、共に教育の営みを行っていく仲間としての「同僚をどうみるか」が、厳しく問われています。

学校には多様な教職員がいます。年齢や性別・性格だけでなく、得意とする教科も、教え方も、子どもとの接し方まで、一人ひとり違います。教師として人間として、それ

ぞれの個性を認め尊重し、互いに協力し合って教育にあたっていく。そのようなぬくもりのある集団の中でこそ、子どもたちの育つ豊かな教育活動は生まれます。

事件の背景にあるもの

同僚への集団によるいじめが起こった背景には、成績主義・効率主義・過度な競争主義があります。

これらの下では、指導の不十分さが攻撃の材料となり、未熟さが「自己責任」にされてしまいます。さらに、常態化する教職員の長時間過密労働と多忙化の問題もあ

ります。教職員間で人間らしいコミュニケーションの時間が奪われ、過度なストレス状態になり、そのはけ口として「いじめ」や「攻撃」が繰り返されたのではないのでしょうか。

互いに尊重し語り合おう

学校は、子どもたちの成長、発達を保障する場です。一人ひとりの教職員は、目の前の子どもたちの実態から出発し、成長と発達を保障するために日々奮闘しています。

悩みや困難があれば、一人で抱え込まず、周りの仲間を信頼し相談しましょう。その解決のために、みんなで知恵を出し合いましょ

う。子どものいのちを守り、人間として大切にされる学校づくりをすすめていくために、職場の仲間を「同僚」として尊重し、率直に語り合う共同のとりくみをすすめていきましょ

管理職は職場のリーダーとして責任を

管理職には「子どもと教職員がいきいきと育ちあう学校」づくりのために、職場のリーダーとしてその責任を果たすことを求めます。

教育委員会は教育条件整備に尽力を

教育委員会には、学校が教育の営みを豊かに創り上げていくうえで大切な教育条件整備に力を入れることを求めます。

私たちの決意

私たちは、ぬくもりが通い合う学校、真に子どもたち保護者から信頼される学校づくりのために全力を尽くします。

お知らせ

「せんせいの学校(4/4)」は中止します

4月4日に予定していた「せんせいの学校」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止いたします。

マスク・消毒液を用意する、講演会のみ開催するなどの対策をおこなっても感染するリスクは排除できない、講師が大阪・北九州間の移動で感染するリスクなどを考慮して決定いたしました。

権利ハンドブック完成 職場で大いに活用しよう

「2020年版権利ハンドブックあなたをマモルン」が完成しました。

私達にはどのような権利があるのか、いつ活用できるのかを学ぶことができる教職員必携の冊子(A5縦)です。

3000部印刷していますので、組合員は必ず読んで、職場でドンドン配布して活用しましょう。

この冊子のPDF版はホームページからダウンロードできるようになっています。

講師の宮本郷子さん、参加を予定されていたみなさんにお詫び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行が収束後に、講演会などを開催いたしますので、ご参加よろしくお願ひ申し上げます。

全教北九州市教職員組合

2020年版
教職員のための権利ハンドブック
あなたをマモルン
いつでも どこでも あなたのそばに

